



Reports from USA



令和 6 年度
坂城中学生 海外派遣事業 報告書

令和6年度

坂城中学生

海外派遣事業 報告書

目次

Contents



あなたの前にはたくさんの道がある

坂城町教育委員会教育長 塚田 常昭

1

海外派遣を通して学んだこと感じたこと

池田 頼生

2

アメリカで学んだこと

小熊 あや

5

海外派遣研修を通して

川島 美咲

8

派遣事業で学んだこと

小林 望珠

11

海外研修を通して感じたこと

小林 珠歩

14

坂城町海外派遣事業を通して学んだこと

塩野 龍空

17

海外派遣を通して

成澤 愛梨

20

海外派遣に行って

宮沢 紗世

24

海外研修を終えて

英語教育コーディネーター 和田 孝子

27

サンフランシスコ・シリコンバレー視察報告書

坂城町教育委員会教育文化課 小林 利史

28

あなたの前にはたくさんの道がある

坂城町教育委員会教育長 塚田 常昭

『坂中生よ 大志をいだけ』

この言葉は、令和元年度に坂城町中学生海外派遣研修を開始した時、当時の坂城中学校堀口校長先生が全校に向けて発したスローガンです。

「これからの坂城町の未来を担う子どもたちには、グローバルな視点を持って、自らの道を切り開き、国際社会に生きる心豊かな人間に育ててほしい。」という山村町長の強い願いが込められていました。

海外研修2日目の朝、プレシディオ中学校において、ホームステイ先の家族と対面し、ホストファミリーとともに出かける生徒は、大きな期待感と少しの不安感が交錯していたのでしょうか、少し硬い表情でした。生徒を送り出す私たちにも、その緊張感が伝わってきました。しかし、そんな生徒を、ホストファミリーは笑顔で迎え入れ、それぞれ出発しました。

海外研修4日目の朝、2日間のホームステイが終わり、再びプレシディオ中学校に集まった生徒の顔つきは明らかに違いました。その顔は自信に満ち溢れ、高揚感に包まれていました。「一人でもホストファミリーと楽しく過ごすことができました。」「英語でうまく表現できなかったけれど、コミュニケーションをとることができた。」等。中には、「アメリカは、私に合っている。将来は、アメリカで生活したい。」と思いを語る生徒もいました。生徒は、新しい環境においても、自ら考え、自らの道を切り開いていく、たくましさがありました。

中国の小説家、思想家である魯迅は、「うしろをふり向く必要はない。あなたの前には、いくらでも道があるのだから。」と、未来に向けて新たな一歩踏み出すことの大切さを説いています。この言葉のように、生徒は、常に前を見据え、自らの未来に思いをはせています。

今回の坂城町中学生海外派遣研修で学んだことを、今後の学校生活に活かし、まわりに広めること通して、心豊かな人間に成長することを願っています。

『Sakaki junior high school students, be Ambitious!』

海外派遣を通して学んだこと感じたこと

池田 頼生

僕は、3月22日から3月27日にかけてアメリカ海外派遣研修に行き、日本とアメリカの違いを学び何回も驚かされました

1日目



一日目は坂城駅で出発式をして成田空港へ向かい、飛行機に16時間ぐらい乗ってアメリカのサンフランシスコへ向かいました。それからバスへ乗って遊園地みたいなところでアメリカへ来て初めてのご飯を食べました。

その時食べたチーズケーキは味が濃くてあまり美味しいとは言えませんでした。

2日目

二日目はプレシディオ中学校でホストファミリーとあいました。

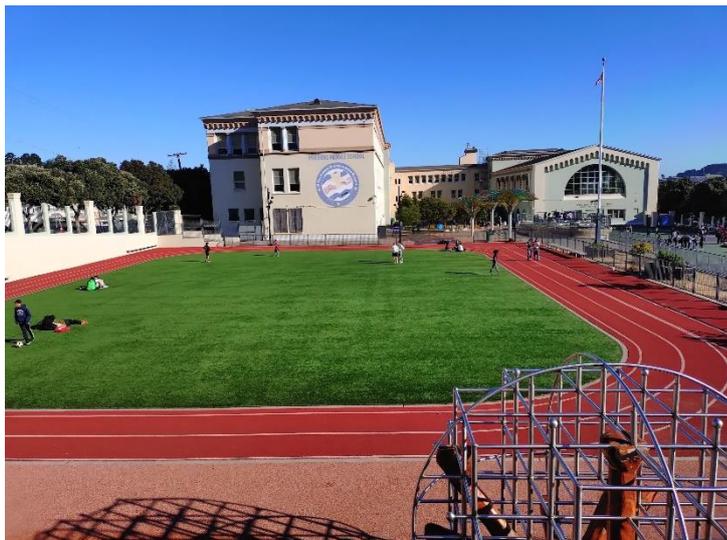


ホストファミリーにサンフランシスコのいろいろなところに連れてってもらいました。

ホストファミリーにサンフランシスコのいろいろなところに連れてってもらって驚いたことは、大体のお店が電子決済しか取り入れてないことと個人タクシーウェイモはすごかったです。運転席に人がいないのに勝手に運転してくれて、しかも消防車や救急車などを感知して道の端っ

こにちゃんと避けてくれたのですごく目的地までも一番近い道で運んでくれました。日本にもこれがあったらいいなあと思いました。

3日目



3日目はホストファミリーと一緒にプレシディオ中学校に登校しました。プレシディオ中学校の生徒さんの朝はみんな校庭みたいなところで各々好きなことをして遊んだりお菓子を持ってきて食べていたりしました。それで学校のチャイムがなったらみんな遊んでいたものを片付けて自分の教室に向かったりしました。僕はホストファミリーと教室

ではなく一緒に体育館に向かいそこでホームルームをしました。ホームルームが終わるとまた30分ぐらい体育館で遊びました。学校のチャイムがなると体育館で体育の授業が始まりました。授業時間は坂城中学校と同じで50分間でしたがその日は体ほぐしの運動だけやってまた次は40分ぐらいの自由時間がやってきてまたみんな遊び始めました。授業が終わりどこの教室に移動するのかと思ったら今度は体育館で読書が始まりました。15分間本を読みました。



読書が終わりやっと体育館以外の場所に移動ができ、数学の教室に移動しました、そこでは数学の勉強をしました。教師の方がすごく早口でちょっと何言ってるのか理解できませんし、みんな英配列で文字が英語のクロームブックを使っていたので僕は数学の時間をボートとしていましたが、教師の方がすごく優しい方だったので僕

に日本語に翻訳してくれたクロームブックを渡してくれました。学校が終わりプレシディオの生徒さんは日本の生徒さんのように自転車や徒歩で帰るのではなくみんな当たり前のようにバスに一人でのりバスで帰っていたのにすごく驚きました。

4日目

4日目はプレシディオ中学校でホストファミリーと別れてインテル、スターバックス、Apple、スタンフォード大学に行きました。行ったどこのストアでも大体カードや電子決済ばかりで現金がほぼ使えないことにとっても驚きました。

まとめ

今回の海外派遣研修で学んだことや感じたことは、ストアでは日本とは違いどこの店もほぼ電子決済かカードで現金が使えないことや、無人タクシーウェイモがいたりしていて経済や交通に関しては日本よりもアメリカのほうがとても発展していてすごいと思いましたが、無人タクシーに関しては日本の道はとても狭いのでこれに関しては無人タクシーは危ないなあと感じました。それと学校の生活では生徒のみなさんがお菓子を持ってきたり持ってきたお金で学校にある売店を使ったり日本の学校とは違いかなり自由だなと思いました。

アメリカで学んだこと

小熊 あや

～行き先～

アメリカ

～ほんとに長かったフライト時間～

9時間ほど

私は3月22日から27日にかけてアメリカに行ってきました。

私は初めての海外でいろいろなことが



学べたし、アメリカのことだけでなく旅行の大変さも知ることができた、とても充実していた6日間でした。

私が海外派遣に参加しようと思った理由は、アメリカが日本とどのように違うのかを見て知りたかったことと、もっと英語を話せるようになりたかったからです。

ご 飯

アメリカに来てはじめてのご飯はサラダを食べました。次は、クラブケーキが来ると聞き、楽しみにしていました。クラブケーキは多分カニコロッケです。日本のはあまいですが、アメリカのはじゃがいも本来の味という感じで少し酸っぱめでした。メインディッシュのクラムチャウダーがきました。とても大きく硬い酸味のあるパンで、クラムチャウダーは日本と変わりませんでした。この2つは合わせるためだけに作られたようにマッチしていてとても美味しかったです。一日目の夜はステーキを食べました。お皿には、ステーキだけかと思っていたら、日本と比べ物にならないくらい大きいじゃがいもなどが乗っていて驚きました。ジュースやケーキはどちらも大きくてすごく甘かったです。でもどこにいてもお茶は味が同じで、次海外に行ったときもお茶を頼もうと思いました。

シリコンバレー

私のホストファミリーのレイラファミリーとともにシリコンバレーの観光をしました。海ではまだ寒いのに泳いでいる人がいました。アメリカでは普通なのかな…とっていたらマザーが、クレイジーと言っていてすごい人はどこにでもいるんだと思いました。市内では無人タクシーのWAYMOが走っていました。アメリカではとてもたくさん走っていて、ハイテクだなと思いました。怖かったです。そしてお店ではほぼ現金のセルフレジがなく、みんなカードを使っていました。円安なので物価がめっちゃめっちゃ高くてステッカーが一枚6ドルするなど高かったです。帰る頃には13ドルくらいのお菓子などを家族などへのお土産にたくさん買っていたので6ドルなんて安く感じました。

アメリカの交通ルールは面白くて、4車線あったり、高速道路では二人以上乗っている車のみ走れる車線があったりと違うことがたくさんありました。

プレシディオ中学校

学校へはレイラとともに30分くらいかけて車で登校しました。私の日程は、

1. 日本語
2. 日本語←レイラとわかる
ご飯を食べる 本を読む
3. 体育
4. 数学←レイラとわかる

授業は90分と長かったです。10分のうちに移動をしなければならないので毎時間バタバタでした。お昼の時間は昼休みに食べたい人はご飯を食べるみたいな感じでした。日本語教室での友達が「食堂のご飯はまずいから食べないほうがいいよ」と言っていました。お昼を食べているときに、日本語のできる6年生の女の子と出会いました。母親が京都の人で、家では日本語を喋っているそうです。アメリカに来て日本語を全然聞いてなかったのが、日本語にとっても感動しました。また、一緒に過ごした海外派遣の仲間とはいつもの何倍も絆が深まるのが早かったと感じました。他にも何を言っているか少しわかりませんでした。フレンドリーに話しかけてくれる子がいて嬉しかったです。お昼休みが終わり、本を読む時間では漫画や本を学校が貸してくれたので読みました。英語の意味がわからなくて進まなかったのがレイラに読んでもらいました。体育は腹筋などの筋トレをしたあとほぼ自由時間でした。そして、レイラと別れ数学の教室に行きました。数学はクロームブックを使いました。みんな電卓を使っているなと思いました。同じ学年でしたが私がまだやっていないところを習っていたのでわかりませんでした。授業を受けているときはメイクなどをしてもよいそうで、マスカラなどを貸し合っていました。

日本人よりも年齢より大人びて見えました。プレシディオ中学校では日本よりも自由さがあってとても興味深かったです。

5日間を通して

最初はとても緊張していましたが、アメリカとも打ち解けることができよかったです。英語が喋れないとホームステイなどでは生活が難しいのでたくさん失敗しながら、英語をたくさん喋ることができました。ホストファミリーのところでたくさん喋ったからか、英語のことをとても理解できた気がしました。これからも失敗を恥ずかしくないで挑戦するのはとても大切だとわかりました。そして、アメリカはトイレが男女共同だったり、無人タクシーが走っていたりと色々進んでいると思いました。このような日本とは違うことを見れたり体験したことは忘れられない経験で、とても楽しかったです。これからもいろんなことに挑戦していきたいです。



海外派遣研修を通して

川島 美咲

私は3月22日から27日の間、海外派遣研修に参加し初めてアメリカへ行きました。この6日間で私はたくさんを知り、学び、感じることができました。

サンフランシスコ観光

サンフランシスコに到着してから、市内を観光しました。市内を観光していてまず驚いたことは坂が急ということです。私達はバスで移動しましたが、歩いて行くには肉体的にも精神的にも無理がある坂だと感じました。ですが、市内の建物はすごく大きくて綺麗でした。お城のような市役所を見たときは、これが本当に市役所なのかと疑ってしまうほど綺麗で素敵だと思いました。

しばらく市内をバスで周ったあと、Pier39というサンフランシスコの有名な場所へ行きました。そこにはお店がたくさん並んでいてとても混雑していました。私達はそこでクラムチャウダーという酸味の効いたパンにアサリのクリームスープが入ったサンフランシスコの名物料理を食べました。とても美味しかったのですがあまりにも量が多かったため、食べることができませんでした。昼食を食べたあとはアメリカで初めて買い物をしました。お土産屋さんには日本のアニメのグッズがたくさん並んでいました。日本のアニメってすごいんだなとアメリカへ来て初めてよくわかりました。



ホームステイ

ホストファミリーとは前から連絡を取り合っていて早く会いたいなと思っていましたが、いざ初対面を目の当たりにするとすごく緊張しました。しかし、ホストファミリーはたくさん話しかけてくれ、飼っているペットの写真を見せてくれて、段々と仲良くなることができました。

ホストファミリーは私に市内を紹介してくれました。なんと、一日目に見つけてずっと乗ってみたいと思っていた二階建てのバスに乗せてくれました。バスの二階は天井がなく、風がとても気持ちよかったです。でもシートベルトがなかったのが少し怖かったです。しかも不運なことにバスが事故にあいまし

た。その時まで私はとってもはしゃいでいたのですが、急に大きな音がしてすごく驚きました。更に驚いたのは、現地の人たちが事故にあった車を写真に収めていたことです。仕方がないのでその後はヒッチハイクをしバス停まで移動して別のバスを待つことにしました。その間、ホストファミリーがフルーツを買ってくれました。マンゴーに辛いソースがかかっていました。最初はためらいましたが、挑戦してみると意外と美味しかったです。

私のホストファミリーは乗馬が趣味で、私を馬小屋に招待してくれました。私は馬に会うのは初めてだったのでとても楽しみでした。そこでは馬に餌やりを体験したのですが、馬は思っていた数十倍も力が強くて体ごと吸い込まれそうになりました。馬と綱引きをしている気分でした。ひととおりに馬に餌をあげたあと、戻ろうと思ったら男の人が馬にあげる用のにんじんを丸かじりしていました。本当に驚きました。餌をあげたあとは馬をブラッシングしました。馬小屋の管理人さんが上手だと褒めてくれました。嬉しかったです。

馬小屋に行ったあとはホストファミリーと一緒に買い物ヘショッピングモールへ行きました。see's というチョコレート屋さんで買い物をしたのですが、試食ができてとても美味しかったです。アメリカのお菓子は味がしっかりしていて一つ食べただけでも満足度が高いです。そこでお土産を買いました。とても喜んでもらえて良かったです。

プレシディオ中学校

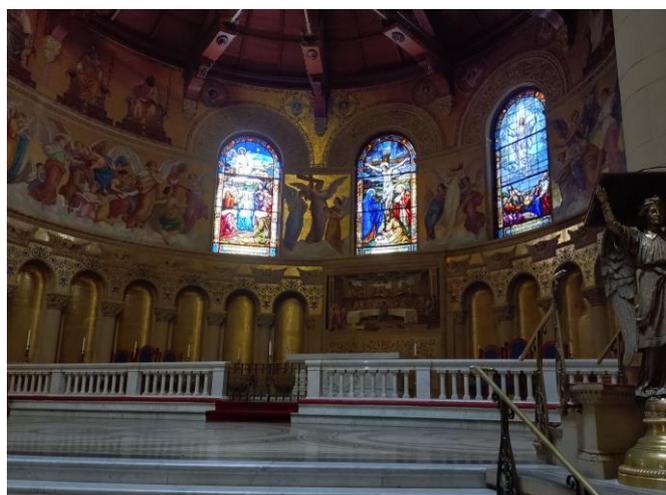
ホストファミリーと一緒に現地の学校へ通いました。アメリカの学校はびっくりするほどうるさかったです。学校にはアドバイザーという授業があります。この時間では自分の終わっていない課題などを進めることができました。私はその時間にホストファミリーの日本語のスピーチの原稿の作成を手伝ったり、学校の人達と話したりしていました。気安く話しかけてくれてとても嬉しかったです。学校では日本語クラスの人たちに坂城町や坂城中学校を紹介しました。みんなと一緒に紹介したので心強かったです。日本語クラスが終わったあとは、私は理科と社会の授業を受けました。理科は呼吸の動画を見たあと、原子の数のバランスをとりました。すごく難しくて私には理解できませんでした。社会は、侍がどんな人だったのか考える授業でした。私は日本人なのに知らなかったことが沢山ありました。

お昼休みにはみんなと一緒に外でランチを食べました。みんなでお菓子を交換したり、はじめましての人達がラップで自己紹介をしていてとても楽しかったです。即興でラップができるなんて尊敬です。

最先端の企業見学

アメリカ派遣最終日には様々な企業を見学しました。私はスタンフォード大学が一番印象深かったです。スタンフォード大学はどこまでが学内なのかわか

らないほど大きかったです。背の高い植物がたくさんあったり、彫刻がたくさんおいてあったりして、見学していてとても楽しかったです。学内にある教会はステンドグラスがとても綺麗で、神秘的で清潔な雰囲気は素敵でした。建物



の中にいるだけで心が洗われるようでした。

スタンフォード大学を見学したあとは、Intel や Apple を見学しました。Intel では半導体について学ぶことができました。Apple では iPad を使って本社を AR で覗いたりしました。どちらも高い技術力に感心しました。

最後はスターバックスで注文の体験をしました。最初はとても緊張しましたが、店員さんがとても

優しく対応してくれてしっかり注文することができました。とても美味しかったです。

まとめ

私はこの研修で初めて外国へ行きました。研修の前は、アメリカの人って怖そうだなと思っていました。言語が通じないというのも私が不安に感じた原因の一つです。しかし実際に現地で過ごした4日間は、思いやりを感じる場面が沢山ありました。言っていることが分からなくても、もう一度わかりやすい言葉で伝えてくれたり、ゆっくり話してくれたり、私がわかるように工夫して話してくれる人がたくさんいました。ホストファミリーだけでなく、学校の人たちもお店の店員さんもとても優しく対応してくれました。そのため今回の研修は、文化の違いや言語の壁があっても人の暖かさを感じる素敵な6日間になりました。この6日間は、私の経験値として今後の人生に大きく役立て、思いやりを大事に生きていきたいと考えました。

派遣事業で学んだこと

小林 望珠

わたしは坂城町の中学生海外派遣事業に参加し、アメリカのサンフランシスコへ行ってきました。この派遣事業の募集用紙がきたとき、一番始めに母に相談をしました。アメリカへ行って、異文化やアメリカと日本の生活の違いを学びたいという気持ちが強くあったからです。3年生になったら修学旅行もあるので、アメリカにも行くととても費用がかかってしまうのでは？と、とても悩みました。けれど、母が学生の時にドイツでホームステイをしたという話を聞いて、わたしも絶対に行きたい！と思いました。家族はみんな賛成してくれました。わたしが一番心配していたことは、英語でホストファミリーと会話ができるのかということです。しかし、できてもできなくても貴重な時間を全力で楽しみたいと思いました。わたしは「異文化を知る」という目標を持ちアメリカへ飛び立ちました。

飛行機

9時間もの長いフライトでしたが、機内では映画が見放題でうれしかったです。ついにアメリカに到着すると、ドキドキとワクワクが止まりませんでした。

観 光

1日目の観光では、ゴールデンゲートブリッジを見に行きました。ゴールデンゲートブリッジは「ゴールデン」と言っているのになぜ赤色なのかを知ることができて、とても面白かったです。

3日目の観光ではスタンフォード大学、intel や Apple へ行きました。スタンフォード大学は敷地がとても広く、教会や銅像などがありました。スタンフォード大学に行く途中の道には、病院がありました。芝生が生えていた道には、スタンフォード大学の「S」という字の形になった花壇がありました。「S」の部分が赤くてきれいでした。教会の壁にはイエス・キリストと弟子たちの絵が描かれていました。スタンフォード大学はすべてがきれいでした。次は intel へ行きました。intel はパソコンの頭脳と呼ばれる CPU (中央処理装置) を作っている会社です。ここではイヤホンや充電器を買いました。Apple では最新のスマホやパソコン、タブレットがたくさんありました。iPhone 16 pro がほしかったです。

ホームステイ

ついにホームステイがはじまりました。ドキドキ緊張しました。会ってみたら、ホストファミリーはわたしのことを暖かく迎えてくれるとても優しい家族でした。家に着いて、荷物を置いたらアメリカの自動運転タクシーWaymoに乗って、ガーデンパークへ行きました。まず、アメリカでは交通ルールが全然違いました。車が右側通行で制限速度もかなり速かったです。ガーデンパークはビルの屋上にありました。日本では見たことのない植物や、松や竹もありました。また、周りにはとても高い建物がたくさんありました。ガーデンパークは太陽があたってあたたかくとても癒やされる場所でした。次は歩いて、チャイナタウンへ行きました。途中で公園に立ち寄って、コーンホールというゲームをシオさんとやりました。初めてやるゲームだったけど、とても楽しかったし最初に比べて仲が深まった気がしました。途中で抹茶のドリンクを飲みました。日本とは大きさが違って、アメリカは食べ物や飲み物のサイズがとても大きかったです。広場にあるメリーゴーランドにも乗りました。久しぶりに乗って楽しかったです。とても速かったです。アメリカでも桜が咲いていました。チャイナタウンにはちょうちんのようなものがたくさんありました。また、いろいろな人が楽器を演奏していました。次は、海の近くにあったチョコレート屋さんへ行きました。種類が豊富でした。海にはもう入っている人やサーフィンをしている人がいました。帰りはWaymoに乗って帰りました。無人の車のハンドルが勝手に動いていることに違和感がありましたが、スマホで呼んで数分待つとすぐに来て、便利だと思いました。アメリカは最新技術ばかりですごいと思いました。

2日目はシオさんと一緒にプレシディオ中学校へ行きました。プレシディオ中学校は小学生から高校生までの生徒がいるので生徒数がとても多かったです。自己紹介では、緊張しました。みんな日本語がとても上手でした。日本とは全然授業が違いました。例えば、授業中にメイクをしてよかったり、お菓子や果物を食べる時間がありました。「自由の国」だなと改めて感じました。日本もアメリカのように「自由の国」となってほしいです。家に帰ってから、シオさんと二人で日本街へ行きました。日本街には日本の物がたくさんありました。次はショッピングモールとスーパーへ行きました。ショッピングモールでは、服やシオさんとおそろいのキーホルダーを買いました。スーパーではアメリカのお菓子を食べてみました。スーパーは日本よりもとても広く、品物の種類が豊富で、サンフランシスコは大都市なんだと感じました。

3日目はホストファミリーとお別れをしました。とても楽しい3日間でした。ホストマザーにお別れと感謝を伝えてプレシディオ中学校の中へ行きました。そして、ついにシオさんとのお別れもしました。最後は少し話をしてからハグをしました。日本へ来たときにまた一緒にショッピングや会話をしたいです。

わたしが3日間のホームステイで学んだことは優しさです。わたしが思っていたホストファミリーのイメージは少し怖い感じかなと思っていたけど、「喉乾いた?」「疲れた?」など気を使ってくれる優しい人たちでした。そして「ありがとう」「どういたしまして」などの挨拶を大切にしている家族だと思いました。挨拶をすることで、した人もされた人も気持ちが良いと感じました。

まとめ

わたしがこの研修で学んだことの1つ目は、どこでも挨拶をすることの大切さです。朝起きたときには「おはよう」、お昼時にあったときは「こんにちは」、寝る前は「おやすみ」などの挨拶をすることで、した人もされた人も気持ちが良いと感じたからです。日本でも挨拶を大切に生活をしていきたいと改めて感じました。2つ目はアメリカは「自由」ということです。プレシディオ中学校では私服登校や授業中のメイクが禁止されていませんでした。わたしが思う「自由」は自分勝手という自由ではなく、自分の個性を好きなきに出せる「自由」です。自分の個性を好きなきに出せる環境が身近な場所にあることはとても良いことだと思いました。また、自由ということはその責任を個人に任されているということでもあります。お菓子や軽食を学校に持っていても良いけれど、決まった時間に食べるというルールを全員が守ることで成立する自由だと思います。日本の中学は規則が多いけれど、ルールを守りながら個性を出せる自由が少しずつでも取り入れられるといいなと思います。

海外研修での6日間はあっという間でしたが、この短い時間の中でも異なる文化に触れて、今まで自分が見たことがないのを見たり、体験することができました。これからも機会があれば他の国の文化を体験してみたいです。

ホストファミリーと対面した様子



シオさんとのゲームの様子



海外研修を通して感じたこと

小林 珠歩

私たちは、3月22日から27日の6日間、アメリカへホームステイをしてきました。初めてアメリカへ行き、日本とアメリカの文化の違いや、食文化の違いなどさまざまなことを学びました。

食事

私が毎回の食事を感じたことは、量がとても多いことです。一つ一つの食べ物が大きく、私はほとんど食べ終わることができませんでした。日本の量の2倍くらいの多さで最初出てきたときはとてもびっくりしました。ですが、どれもおいしくとっても幸せでした。また、味が濃く、アメリカの人たちの食事を実際に経験することができたのでよかったです。

ホームステイ 1日目

ホームステイ1日目では、全員でプレシディオ中学校へ行き、ホストファミリー



ーがお迎えに来てくれました。私のホストファミリーの生徒はフィオナという女の子で、会ったときには嬉しそうな顔をして歓迎してくれたのでとても嬉しかったです。家に着いてからは私が食べたいと言っていたハンバーガー屋さんに連れて行ってくれました。アメリカのハンバーガーは日本のものよりも大きいという印象があり気になっていたの

のでとても嬉しかったです。そして、実際にハンバーガーが届くと予想以上に大きく、具もたくさん入っていてびっくりしました。

連絡の中で食べたいと話した会話を覚えてくれていて、本当に連れて行ってくれたことが嬉しかったです。

そして、その後には買い物へ行き、家族へのお土産をたくさん買うことができ



ました。その時にもアメリカの街についてたくさん教えてくれて楽しかったです。

1日目の夕食はホストマザーが作ってくれたグラタンでした。

フィオナの家族の中にはいり、本当の家族のように振る舞ってくれて、馴染みやすい環境を作ってくれました。夕食中にもたくさん話して、より仲を深めることができた時間だったと思います。すべての会話は理解できなくても、笑顔が絶えず、明るくとても居心地のいい時でした。

ホストマザーが心をこめて作ってくれたご飯をたくさん食べて味わうことができたのでよかったです。

ホームステイ 2日目

ホームステイ2日目は、フィオナと一緒にプレシディオ中学校で1日を過ごしました。アメリカの授業の雰囲気を感じ、授業中におやつを食べたりなど、日本とは全く違いとても新鮮でした。また、日本語の授業も受けさせてもらい、坂中について発表しました。一生懸命全員で作ったスライドを聞いてもらったので嬉しかったです。

思ったよりも日本語が上手でびっくりしました。

日本語の授業が終わり、ランチの時間には、ホストマザーが用意してくれたご飯を食べました。フィオナのお友達と楽しく食べることができてよかったです。また、そのお友達の中には日本語を話せる子がいて、それまで周りには日本語が通じない人ばかりで緊張していたけど、その瞬間に緊張がほどけて楽しむことができました。アメリカの人たちはとてもフレンドリーで班活動などのときには誘ってくれたりしてとても嬉しかったです。

ホストファミリーとお別れ

ホームステイ3日目にホストファミリーとお別れしました。

2日間お世話になった家族に感謝の気持ちを伝え、お別れすることができたのでよかったです。2日間だけだったけど、ホストファミリーとの思い出はたくさんあり、2日だけとは思えないくらいとても濃い毎日でした。これからも連絡をとりあい、機会があればまた会いに行きたいです。

アメリカの町並み

ホストファミリーとお別れをしたあとは全員で観光をしました。

スタンフォード大学は、とても大きく写真で見ていたものよりも実際に行ってみると一つの街のようでした。そのため、大学内では自転車で移動している人が多く見られました。また、日本でも利用しているAppleの会社にも行き、とてもすごい技術を体験することができたのでよかったです。日本でも利用していることがアメリカからたくさん進出していると考えるとアメリカのすごさを肌で実感することができました。

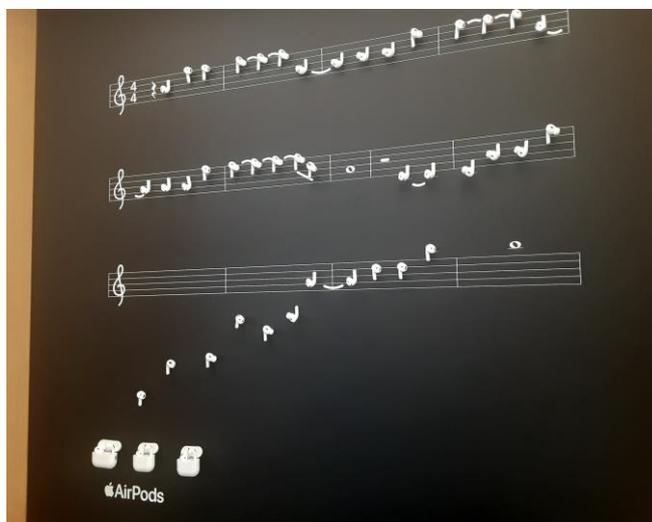
海外研修を通して

私はこの海外研修を通して、人と関わることの楽しさを改めて感じることができました。始めは言語が違い、食文化、文化も違う人と2日間過ごすことにとっても緊張していたけど会ったときにはたくさん話しかけてくれて居心地のいい雰囲気を作ってくれました。そこから、家族とコミュニケーションをとることができ、わからない英語が多くありましたが一生懸命会話をすることができたのでよかったです。言語の壁を感じないくらい楽しむことができました。普段の生活では同じ言語を話し、話すことに不便さを感じることはないのですが、今回の研修で普段では感じれないことを経験することができたのでよかったです。



ホームステイでは本当の家族のように振る舞ってくれて、忘れられないとっても濃い2日間でした。また、初めてのアメリカで日本との違いをたくさん見つけられました。この海外研修で学び、感じたことをこれからも生活でも活かしていきたいです。

ホームステイでは本当の家族のように振る舞ってくれて、忘れられないとっても濃い2日間でした。また、初めてのアメリカで日本との違いをたくさん見つけられました。この海外研修で学び、感じたことをこれからも生活でも活かしていきたいです。



坂城町海外派遣事業を通して学んだこと

塩野 龍空

僕は、3月22日から3月27日にかけてアメリカ海外派遣学習に参加しました。

ホームステイや一日学校体験をして、この6日間で僕はアメリカと日本の違いや、文化の違いを学びました。

【一日目】

一日目は、楽しみと不安が混じった感じで朝の坂城駅を出発しました。成田エクスプレスに乗り、成田空港についたら日本人よりも外国人のほうが割と多かったです。恐る恐る入国審査の方へ進んで、通ったら人生初めての飛行機に乗って日本を旅立ちました。飛行機の中は静かだろうと思ったのですが、意外とうるさかったです。サンフランシスコの空港についたら、入国審査があり、審査官がすごい無口で少し怖かったです。外に出たら外には見学用のバスがあり、そのバスに乗って僕達はサンフランシスコ市内を見学しました。見学して

いる途中に驚いたのは、

「Waymo(ウェイモ)」という無人タクシーが市内を走っていました。ここからわかったのは、サンフランシスコでは無人化が進んでいることです。それにアメリカではIT企業が発展していて、お店では現金よりもカード払いなどが多くなっていることがわかりました。



無人タクシー「ウェイモ」

【食事】



アメリカの料理は日本とは違って全てにおいて大きかったです。一日目のクラムチャウダー、クラブケーキ、ステーキのサイズにびっくりしてなんとか食べ切れたりはしましたが、デザートにチーズケーキが出てきてびっくりしました。最後の日のステーキも大きすぎて大体の人が食べ切れていませんでした。アメリカの料理はとても大きくて、僕達

が食べた料理は油がとても使われていて重い料理がほとんどでしたが、とても美味しかったです。

【二日目～三日目】

二日目と三日目ではホストファミリーのアージョマンディさんのお宅に泊めさせてもらいました。

初めて会って話すときはとても緊張したけれど、アーヨさんとホストファザーが優しく接してくれて嬉しかったです。

二日目はホストファミリーと一緒にゴールデンゲートブリッジの下にある軍事要塞に連れて行ってもらいました。軍事要塞にはゴールデンゲートブリッジの歴史についての説明もあって、ゴールデンゲートブリッジについて詳しく知ることができました。軍事要塞には他にも、様々な大砲がたくさんたくさん残されていました。



その後は、チャイナタウンや、その他有名な場所を巡ってよかったです。

ホストファミリーが緊張している僕に優しく話してくれていたのもとても楽しい思い出になりました。

出になりました。

三日目はプレシディオ中学校で一日体験学習をしました。

プレシディオ中学校の登校時間は日本の中学校よりも遅く、準備などに余裕がありました。

プレシディオ中学校は日本と違って、すべての科目において移動教室でした。学校は広く人数が多かったので移動は少し大変でした。

プレシディオ中学校では、私服で髪を染めている人や、ピアスをしている人などがいて一人ひとりの個性が輝いているところだなと思いました。それに、男女関係なく接することができて僕が初めての場所でとても緊張していましたが、初対面にもかかわらず、「この時計かっこいいね。」など、優しく接してくれたことがあってとても嬉しかったです。僕達の坂城中学校もこのような個性あふれる学校にしていきたいと改めて感じました。

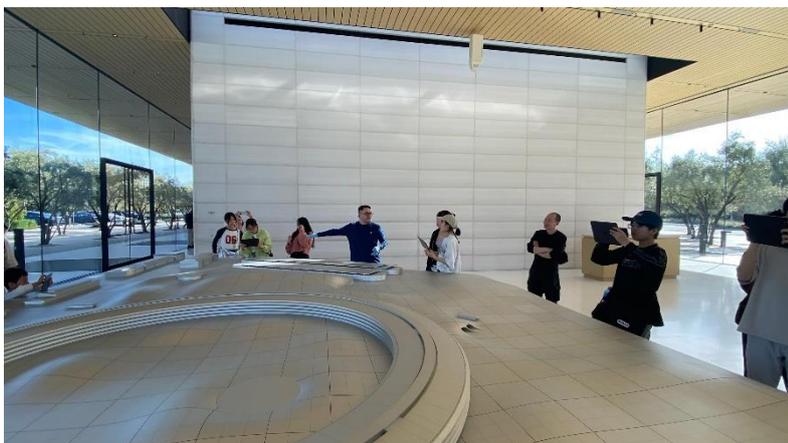


学校が終わった後はバッファローパドックというゴールデンゲートパーク内にある場所に行きました。バッファローはとても大きくて少し怖か

ったですが、最後までホストファミリーと一緒にサンフランシスコをまわられて良かったです。緊張してそんなに話せなかった僕に優しく接してくれたホストファミリーにはとても感謝しています。

【四日目】

四日目はスタンフォード大学とアップルなどに行きました。スタンフォード大学はとても広く、東京ドーム 700 個分の大きさです。スタンフォード大学には教会があったり、お土産を買うところもありました。お昼はスタンフォード大学のカフェテリアで食べました。次に、アップルに行きました。



アップルは敷地がとても広く、僕達はアップルストアで買い物をしたりしました。

すべて高く買うことができませんでしたが、アップルの本社を AR で覗ける体験もできたりでアメリカの発展はすごいと思いました。

最後に、僕は出国する際に出国審査の荷物チェックで引っかかりました。なぜなら僕はリュックの中を整理してなく、その中にはいっていた 100mL 以上の水があって、それがひっかかってしまいました。その時に僕は荷物内の上のものは必ず整理しないといけないと学びました。

【この研修を通して】

僕はこの海外派遣を通して日本とアメリカの文化の違い、アメリカの産業の発展をよく知ることができました。

アメリカの IT 企業の発展では、レジが現金ではなくカード払いのお店がほとんどで、市内では、人が運転しているタクシーが少なく、無人化 (Waymo) が日本より進んでいるのがわかりました。

自分の目標には少し欠けてしまったところもあったけれども、この海外派遣学習を通してコミュニケーション能力が高まった感じもしました。この海外派遣学習に関係してくださった方々、家族には本当に感謝しています。この海外派遣学習を通して自分自身が学んできた知識を、今後自分の身近な人たちに伝えるだけでなく、もっとたくさんの人たちに伝わればと思います。

そして、この派遣学習で学んだ知識を自分の未来に最大限に活かそうと思います。

海外派遣を通して

成澤 愛梨

私は、町や両親からの支援を受け今年の3/22～3/27までアメリカのサンフランシスコに滞在してきました。幼い頃からの憧れのアメリカの文化を学ぶことができ、この6日間は人生の中でも大切な、思い出に残る期間になりました。一日目から三日目の3日間のことを書いていきたいと思います。

一日目～サンフランシスコ観光～

期待と楽しみな気持ちでワクワクしながら乗った飛行機から降り、サンフランシスコ国際空港に到着。まずそこで驚いたことは、外国人しかいなくて、英語などの外国語しか聞こえないことでした。このことに驚いたことで、やっとアメリカに来たんだと実感できました。

このあとはバスに乗り、ツインスピークス、ピア39、ゴールデンゲートブリッジに行きました。ツイン・ピークスから眺めたサンフランシスコの街の景色



が、日本とはまた違って新鮮で最高でした。ピア39で初めて食べたクラムチャウダーのパンの味は今まで食べたことがない酸味だったので、思わず目を見開くぐらいすごく印象に残り、新しい味を知ることができました。中に入っていたシチューとクラブケーキは好みの味で、すごく美味しかったです。ゴールデンゲートブリッジは写真で見たときよりも、長くて、

色が赤くて周辺の景色とも合っていて見とれてしまうぐらい綺麗で最高でした。サンフランシスコの街をバスで通っているとき、飲食店などの屋根に、LGBTQのレインボーフラッグが掲げているのを見て、日本よりも多様な性を認める動きが進んでいるなと思いました。

二日目～ホームステイ開始～

朝、寝坊して朝食はコンフレーク一杯しか食べられなかった状態でスタートした二日目。まず最初に、「WAYMO」という自動運転のタクシーに乗って、フェリーターミナルに行きました。そこで、四角いネギとチーズが入っているパンとチ

ェリーコーラを飲んだり食べたりしました。朝ご飯をまともに食べてなかったので、お腹を満たせて良かったです。パンとチェリーコーラとフェリーのチケットを買うとき、ホストファザーがキャッシュレスで会計していたこと、他の人達もキャッシュレスで会計していることにすごくびっくりしました。日本ではまだ、現金が主流なので、自動運転のタクシーも含めてアメリカのほうが日本よりも IT 化が進んでいるなと思いました。フェリーから降り、ホストファミリーの車で「Target」というドンキみたいに色々売っている店と、大谷翔平が好きなハンバーガーチェーン「IN - N - OUT」に行きました。「Target」のゲーム売り場で、デモ版のマリカとスーパーマリオブラザーズ・ワンダーをやりました。楽しくて、1 日中そこにいられるなと思いました。日本でも、デモ版ができればいいなと思います。アニメグッズ売り場もあり、大半が、スパイファミリー、ヒロアカ、鬼滅、ワンピース、ドラゴンボール、ポケモンなどの日本のアニメグッズで、日本のアニメ人気はやっぱりすごいなと思いました。「IN-N-OUT」では、ハンバーガーセットを頼みました。思ったよりもバーガーがアメリカンサイズにしては小さめだったので食べやすかったです。ポテトも細めでカリカリしていて、ありだなと思いました。お腹いっぱいになってしまっただけで残ってしまったのもったいなかったです。

フェリーの中やホストファミリーの車で、乗り物酔いの影響と、自分の英会話力が無さすぎて、ファミリーとあまり会話ができなかったので、すごく後悔しています。でも、ホストファミリーの家でホストシスターと一緒にスマブラとマリカをしたり、ホストブラザーと折り紙ができたのですごく楽しかったです。日本の文化の折り紙を知っていることと、折り紙を持っていることに驚きました。この日が一番楽しかったです。



フェリー



ホストファミリー

三日目～プレシディオ中学校～

時差にも慣れてきた三日目、ホストマザーとファザーが用意してくれた、朝食がすごく美味しかったのを覚えています。しかも、夫婦一緒に家事をしているのを見たことがなかったので、日本でもそういう文化ならいいのになと思いました。

この日は、ホストシスターと一緒にプレシディオ中学校に行きました。すごく楽しみでワクワクしていました。ここで私は、Advisory、日本語、Health、Danceの授業を体験しました。Advisoryは宿題ができたり図書館に行ける授業ですごく羨ましかったです。坂中にも欲しい授業だなと思いました。Healthの授業ではUNOをやりました。一緒にやった人たちがすごくオーバーリアクションだったので、びっくりしました。でも、すごく面白かったです。日本語以外の授業はみんな英語で話していたので何言ってるかわからなかったけど、翻訳を使って何をするか教えてくれた先生がいて、とても嬉しかったのを一ヶ月たった今でも覚えています。制服を着ていたら、「これは日本の制服なの？」と聞かれたり、周りが私服だからか目立ったので、着て行って良かったなと思いました。学校帰りには、私のホストファミリーと珠歩さんのホストファミリーといっしょに、タピオカ、コーヒーなどのドリンクのお店のLittleSweetに行きました。私は、バナナシェイク 25% Sugar を飲みました。25%で日本の味に近かったので、アメリカの甘さは結構やばいんだなと思いました。25%にしてよかったです。



Health の授業

まとめ

思ったよりも IT 化が進んでいて電子決済しかできないところが多くてびっくりしたし、日本にもあればいいなと思うものが一杯ありました。やっぱり、英語は何を言っているか全然わからなかったのもので、自分の英語力をもっと上げたいなと思いました。でも、合っているかわからない不安がある中で頑張っって英語で話して伝わったときの、達成感が半端なかったのもので気分が良かったです。あと、アメリカの人達はみんな怖いのかなと思っていましたが、全然そんなことなく、みんな親切で優しくて明るくて、いい人達だなと思いました。また、アメリカは日本とは違って同調圧力がほとんどないので、自由な国だなと思いました。周りの目を気にすることなく過ごせたので、アメリカでは自分の殻を破れた気がしました。なのでまた滞在したいなと思いました。あわよくば移住したいです。

支援してくださった事務局の方々と両親、受け入れてくれたホストファミリーには感謝しきれないです。参加させていただきありがとうございました。この経験を進路に活かして行きたいです。

海外派遣に行って

宮沢 紗世

3月22日から3月27日まで、海外派遣でサンフランシスコに行きました。ホームステイや観光、中学校での授業を通じて、日本と違う文化をたくさん経験しました。

観光

長いフライトの後、サンフランシスコを観光しました。まず、最初にツイン・ピークスに行きました。ツイン・ピークスでは、サンフランシスコの景色を見たり写真撮影をしたりしました。サンフランシスコは、半分が都会で半分が田舎で、島のようなところでした。次にピア39に行き、アシカが見える席でクラムチャウダーと、クラブケーキを食べました。クラムチャウダーはパンが酸っぱく、中のクラムチャウダーとの相性が抜群でした。クラブケーキはカニや玉ねぎなどが混ざっているハンバーグ状のコロッケでした。二つとも美味しかったし、とても大きくてびっくりしました。

最後にサンフランシスコの名所、ゴールデンゲートブリッジに行きました。ゴールデンゲートブリッジは瀬戸大橋の姉妹橋だそうです。写真で見るよりも立派で大きな橋を近くで見ることができて嬉しかったです。

ホームステイ

23日、24日にルシアさん宅へホームステイをしました。研修メンバーがいなくてうまく話せるかとても不安でしたが、ルシアさんがたくさん私のことを聞いてくれてあまり緊張しませんでした。

23日は最初にゴールデンゲートブリッジを歩きました。1日目も行ったのですが、近くまで行かず遠くで見ただけなので実際に歩いてみると迫力があり、高いことを実感しました。

次に、Muir Woods 国定公園に行きました。そこでは自由の女神よりも高い木を見ることができました。たくさんの自然に触れることができ、サンフランシスコはICTだけではなく自然も豊かなのだと思いました。

次に、アイス屋さんに行きチョコチップアイスを食べました。食べているときに好きな漫画やアニメの話になり、たくさん話せて心の距離が縮まったなと感じました。また、車の中でYOASOBIの「アイドル」の日本語バージョンを流していて、音楽って世界共通なんだと感じました。

家に着き、最初にルシアさんの漫画コレクションを見せてもらいました。まだ私が見たことのない漫画を持っていて、すごいなと思いました。次に、ルシアさんの卒業アルバムを見せてもらいました。ルシアさんにはたくさんの友達

がいてその友達一人ひとりのいいところを言っていて、友達を大切にしているんだなと思いました。夕飯の前にルシアさんも私と同じゲームをしていたので一緒にゲームをしました。JP サーバーと American サーバーでは少し違うところがあり、JP サーバーを見せたらとても喜んでいました。また、ルシアさんは吹奏楽部に入っていて、スター・ウォーズの曲をフルートで演奏してくれました。

夕飯の後に日本からのお土産を渡しました。私が持っていったのは抹茶のお菓子と、折り紙、箸、文具などです。特にポッキーの抹茶味は「これ食べてみたかったの！」と言ってとても喜んでくれていました。

プレシディオ中学校

24日は中学校に行きました。学校に着いたらルシアさんが吹奏楽部に入っているの吹奏楽の練習を見学しました。一音一音パワフルでした。1時間目は日本語の授業を受けました。坂城中学校と町について紹介し、みんな興味を持っていてくれました。2時間目は社会の授業でした。源頼朝について授業をしていました。3時間目は体育でした。ルシアさんと授業がばらばらになってしまったのですが、ルシアさんの友達が私の面倒を見てくれました。体育ではシャトルランをしていました。リズムがとてもポップで日本もこういう音楽にすればいいのになと思いました。休み時間には男女関係なくグループになって、楽しそうに話しているところを見ました。また、いろいろな人種の生徒がいましたが、みんな、それぞれを尊重していました。プレシディオ中学校にはいろいろな人たちがいることで、色んな人と仲良くする術を学べるんだなと感じました。一日学校に行ったことを通して、誰もが平等に接していることが分かりました。

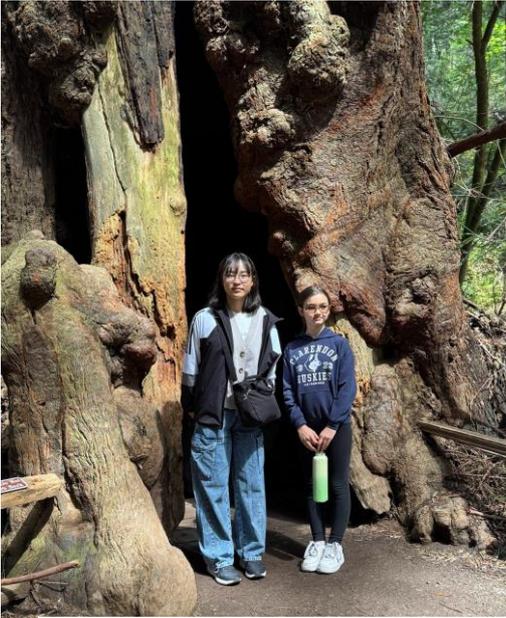
まとめ

この研修で私は海外の文化をいろいろと体験することができました。特に印象に残ったのは、食事の時間に感謝の気持ちを伝え合うことです。感謝の気持ちを伝え合う時間があるから、ホストファミリーはとても仲良しなのだなと思いました。私は日頃、親にたくさんお世話になっているのに感謝の気持ちを伝えていないと気付かされ、日本に帰ったら感謝の気持ちを伝えようと思いました。

この研修を通して不安だった英語力を自信に変えることができました。最初は英語を聞き取るので精一杯でしたが、過ごしていくうちに聞き取りと、読みが強くなったと感じました。話すのは端的にしかできなかったけれど、相手に伝わったので、積極的に会話して良かったなと思いました。また、サンフラン

シスコは ICT 化が進んでいることを実感しました。Waymo という無人タクシーがあり、私が見たときはバックまでできていました。サンフランシスコの技術は進んでいてすごいと思いました。

この研修を通じて一番大切だと感じたことは、なにか一言でも感謝の気持ちをきちんと伝えるということでした。遠慮せずに何をしたいかを言い、してもらったことに対して感謝を伝えるという経験ができて、とても有意義で貴重な時間でした。



Muir Woods 国定公園での写真



ゴールデンゲートブリッジでの写真

海外研修を終えて

英語教育コーディネーター 和田 孝子

2018 年秋、カリフォルニア州に下見に行ってから、コロナ渦を経て、昨年につき 2 回目の中学生海外研修が行われました。

下見で訪れた OIG の方から近くの高校をご紹介いただき、その高校の先生からサンフランシスコ市内のプレシディオ中学校の田中先生をご紹介いただき、坂城中学校とプレシディオ中学校で、自己紹介や町の紹介などを送り合って交流を重ねてきました。

そして田中先生からホームステイの受け入れや学校体験を提案していただいたことで、同年代のホストブラザー・シスターと家庭で過ごし、学校と一緒に登校して授業を受けるという貴重な体験をすることができました。ホームステイでは、サンフランシスコならではの体験をさせてもらったり、家族の一員として受け入れていただき、さまざまな学びがあったようです。学校ではホストの子だけでなく、いろいろな子たちが話しかけてくれて、好きなゲームやアニメの話、趣味の話をして言葉を交わしている姿がありました。多様なアメリカの文化に触れると共に、世界に日本文化が広がり認められていると誇りに思うこともできたのではないのでしょうか。

ホストファミリーに会う前は、「うまくコミュニケーションがとれるか心配..」と言って緊張している様子でしたが、ホームステイや学校体験の後は「ずっとアメリカに居たい!」「また学校に行きたい!」と、すっかりアメリカにハマったようでした。楽しそうに言葉を交わしながらショッピングを楽しんだりする姿も見られました。

シリコンバレーでは、スタンフォード大学の広いキャンパスに圧倒され、コンピューターの開発の歴史を知り、日本でもよく名前を知っている IT 企業の建物をみたりして、最先端の技術を肌で感じるすることができました。

親元を離れて海外で 6 日間を過ごすという経験は初めてだった子ども達でしたが、大きく体調を崩すことなく、現地での経験に驚いたり、感心したり楽しむことができ、元気に帰って来れたことが何よりだったと思います。

「多くのご家庭からホームステイを受け入れたいと希望があるので、上級生から優先にお願いしているんですよ。」と田中先生からお聞きし、オープンマインドで私たちを受け入れていただいたことに感謝すると共に、子ども達がこれからもホスト達と交流を重ねて、どこかで再会して欲しいと思います。

この経験が参加者だけでなく、坂城町の子ども達のこれからの可能性につながっていくことを願っています。

最後に、プレシディオ中学校の田中先生をはじめ、この研修にかかわっていただいたすべての皆さんに改めて御礼申し上げます。

サンフランシスコ・シリコンバレー視察報告書

坂城町教育委員会教育文化課 小林 利史

はじめに

中学生海外派遣事業の引率として、サンフランシスコ市とシリコンバレーを視察する機会を得ました。短い滞在期間ではありましたが、現地の社会や教育に触れる貴重な経験となりました。今回の視察で得られた情報や考察をまとめ、今後の海外派遣事業に活かすために報告書を作成します。

1. コンパクトな都市、多様な文化、観光

サンフランシスコ市は、人口約 80 万人、約 12km 四方と、その知名度の高さに比べるとコンパクトな都市です。ツインピークスから市街を一望すると、そのコンパクトな様子が理解できます。

かつて市民の足であったケーブルカーは、現在は観光客向けの 3 路線のみが運行しています。急勾配の坂道が多いサンフランシスコにおいて、ケーブルカーに乗車すると、文字通り「坂の街」であることを実感できます。

ピア 39 やゴールデンゲートブリッジは観光客で賑わいを取り戻しつつあり、活気を感じました。コロナ禍を挟み治安が不安定になっているという事前の情報もありましたが、旅程を通じて、日中、治安の面で危険を感じることはありませんでした。

ダウンタウンにあるスーパーマーケット Trader Joe's にも寄りましたが、夕方の時間帯ということもあり、多くの買い物客で賑わっていました。

サンフランシスコは、様々な国からの移民が多く住む多文化都市です。中華街やベトナム人街などの移民の街、ロシア正教の教会建築、多国籍の食文化、スペイン語やネイティブアメリカンの言語を語源とする地名に多文化のルーツを感じることができます。また、市内には性的な多様性を表すレインボーフラッグも見られ、多様な価値観が共存する街であると感じました。

2. 都市交通の現状

カリフォルニア州は、2035 年までに新車販売をゼロエミッション車のみとするという目標を掲げています。しかし、市内では、依然として日本のガソリン車が多く走行していました。一方、自動運転技術を搭載した WAYMO (ウェイモー) の実用化が進んでおり、スマートフォンアプリを通じて容易に利用できる状況は、未来の都市交通システムを先取りしているようでした。約 300 台もの WAYMO が市内を走行し、昨年度も引率された和田先生は前回と比



べて WAYMO を目にする回数が飛躍的に増えたと仰っており、自動運転技術が研究開発の段階から社会実装へと着実に移行していることを感じました。

3. 教育制度と学校現場の視察

カリフォルニア州の教育制度は、高校までが義務教育であり、公立学校の学費は無償です。今回の視察では、プレシディオ中学校とジョージ・ワシントン高校の2校を訪問し、現地の教育現場の様子を直接見学する貴重な機会を得ました。

プレシディオ中学校では、本事業にご協力をいただいている田中先生の授業を見学しました。授業の冒頭にその日の学習目標 (today's goal) と授業の計画 (agenda) が示され、授業の最後に目標が達成できたかどうかを生徒自身が振り返るといった流れは、生徒の主体的な学びを促すための工夫であると感じました。

プレシディオ中学校では、週に4日は1コマ80分の授業を行うブロックスケジュールが採用されています。80分という授業時間は、生徒にとって長く感じる可能性もある一方で、授業の準備や深い議論、振り返りの時間を十分に確保するために有効であるという説明を受けました。教室では坂城町と同様に chromebook が導入されており、ICT を活用した教育が日常的に行われていることが分かりました。



また、昼食後の読書時間には、教室に置かれた日本の漫画を熱心に読んでいる生徒たちの姿があり、日本文化への関心の高さが伺えました。

ワシントン高校では、日本語を教える森川先生からお話を伺いました。ワシントン高校でも、火、水曜日は授業時間の長いブロックスケジュールを採用しており、生徒へのフィードバックやプレゼンテーションに十分な時間を割いていると



田中先生の紹介で訪問したワシントン高校でも、火、水曜日は授業時間の長いブロックスケジュールを採用しており、生徒へのフィードバックやプレゼンテーションに十分な時間を割いているとのことでした。森川先生は、デザイン思考の手法を取り入れ、「考え方」そのものを教えることを重視していると仰っており、知識の伝達だけでなく、生徒が自ら問題を発見し解決する能力を育成しようとする熱意が伝わってきました。

ワシントン高校や市内のリンカーン高校は、障がいのある生徒も積極的に受け入れる「comprehensive」な学校であるという説明を受けました。日本では「インクルーシブ (inclusive)」という表現が一般的ですが、「comprehensive」という言葉には、多様な生徒が共に学ぶことを前提に、多様なニーズに対応しようとするより包括的なニュアンスが含まれているように感じました。

4. シリコンバレーのイノベーションエコシステム

サンフランシスコから車で1時間程南へ走ると、世界的なテクノロジー企業が集積するシリコンバレーが広がっています。中心を走る国道101号線の両側には、世界を代表するテクノロジー企業が軒を連ねています。その中でも、アップル社の巨大な円形社屋「Apple Park」は、その壮大なスケールと未来的なデザインで圧倒的な存在感を放っていました。

かつて果樹園であったこの地域は、現在ではイノベーションの中心地として、世界経済に大きな影響を与えています。ハイウェイからスタンフォード大学へと続くサンドヒルロード沿いには、数多くのベンチャーキャピタルオフィスが立ち並び、新たな技術革新の種に投資を行っています。

スタンフォード大学の「自由の風が吹く (Die Luft der Freiheit weht)」という motto には、西部州の自由闊達な気風が表れています。カリフォルニア州が東部州から約100年遅れて成立し、19世紀には「ワイルドウェスト」と呼ばれた歴史的背景も、自由な気風を育む土壌となったのかもしれませんが。スタンフォード大学は、企業からの豊富な寄付により、約5兆円もの巨額な基金を保有しており、最先端の研究開発を支える大きな力となっています。7学部を有する約32km²の広大な敷地は、坂城町の面積(約54km²)と比べて、その規模の大きさに驚かされます。

今回のキャンパス見学で特に幸運だったのは、NVIDIAの創業者 JEN-HSUN HUANG 氏の寄付により建設されたエンジニアリング・センターの内部を見学できたことです。センター内には、シリコンバレーの発展を支えたHP社の初期のオシレーターなど、この地域の技術革新のルーツを辿る展示があり、シリコンバレーの起業家精神を次世代に伝えようとする意図が感じられました。過去のイノベーションを尊重し、そこから学びを得ようとする姿勢は、新たな技術革新を生み出す上で重要な要素であると感じました。



スタンフォード大学 JEN-HSUN HUANG エンジニアリング・センター (右は HP 社が創業したガレージを模した展示)

まとめ

今回の視察は、サンフランシスコの都市の多様性、教育現場の取り組み、そして世界を牽引するシリコンバレーのイノベーションのエコシステムを学ぶ貴重な機会となりました。特に、自動運転技術の実用化、教育現場における主体的な学びを促す工夫、そしてシリコンバレーにおける過去の遺産を尊重しつつ未来を創造しようとするエネルギーは、参加した生徒たちが今後の日本社会を考える上で多くの示唆を与えてくれたのではないかと思います。今回の視察で得られた経験を活かし、この海外派遣事業がより実りあるものとなるよう、研修内容の充実に繋げていきたいと思えます。

結びに、昨年度に引き続き海外派遣事業に多大なご協力をいただきましたプレシディオ中学校の田中先生をはじめ快く見学にご対応いただいた先生方、ワシントン高校の森川先生、添乗員の井上さん（株）JTB 長野支店）、3名の現地ガイドの皆さんに心より感謝申し上げます。



令和 6 年度
坂城中学生



海外派遣事業 報告書

坂城町教育委員会
中学生海外派遣事業実行委員会